

琉球大学学術リポジトリ

特色GP

“「教育の場」としての図書館の積極的活用” —
これまでの取組と将来への課題 —

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2008-10-16 キーワード (Ja): 情報リテラシー教育, 特色ある大学教育支援プログラム (特色GP), 明治大学図書館 キーワード (En): 作成者: 広沢, 絵里子 (明治大学図書館副館長), Hirosawa, Eriko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/7508

特色GP“「教育の場」としての図書館の積極的活用”

—これまでの取組と将来への課題—

2008年10月10日

琉球大学附属図書館講演会「情報リテラシー教育と図書館」

広沢絵里子(明治大学) hiroeri@isc.meiji.ac.jp

1. 「教育の場」としての図書館の積極的活用

- 平成19年度特色GP
- 若者の活字離れ ⇔ 大学図書館の高度化
- 図書館利用者教育による「橋渡し」の必要性
- 図書館を通じて育てる自立した「個」

2. 取組の全体像

- 取組の具体的内容
- 多様な教育活動
 - ① 学部間共通総合講座「図書館活用法」
 - ② ゼミツアー
 - ③ デジタルコンテンツ
 - ④ フリーツアー、出前講義、各種講習会
- ① 学部間共通総合講座「図書館活用法」
 - 2000年度開講 選択科目の正課授業
 - 2単位付与(半期、14回)
 - 教員と図書館員の協働授業
 - 授業資料、授業評価アンケートの公開
- ② ゼミツアー
 - 教員からの要望で開催
 - ゼミ、授業時間内に実施
 - 出席回数にカウント
 - オプション性を高める工夫(申込用紙、事前打合せ)
 - 教員のフォロー
- ③ デジタルコンテンツ
 - 2006年度より公開
 - 2008年3月現在:「図書館活用法」講義 (6コンテンツ)、図書館ガイドツアー (3コンテンツ)
 - 学生、卒業生、一般社会人

3. これまでの成果と今後の展望 — 総合講座「図書館活用法」

- 講義体制—教員・職員の協働
- 講義内容—現代的課題への対応
- 履修状況—履修者数、授業環境(表1参照)
- 課題とレポート
- 学生の満足度(授業評価アンケート)

(課題とレポート)

- 文献調査課題(初回授業)
- 各実習授業における検索課題

- 期末レポート:一般常識的テーマについてのエッセイ(2000字程度)
- ネット社会、環境問題、少子化・・・
- テーマに関する文献リストの添付
- 読んだ文献からの「引用」と、「注」の表記
- 「論文」の形式を意識した作文

(学生の満足度(授業評価アンケート))

- 「図書館活用法HP」での公開
- 和泉キャンパス(1・2年次)
- 授業環境の改善
- 実習授業を好む傾向
- 「図書館活用法」以外の授業における、情報検索技能の利用、レポート作成への活用
- 複雑なレポートへの改善要望
- 100点満点評価:60点台から70点台へと向上

(ゼミツアーの動向:表2参照)

- 和泉キャンパスを中心として急速な増加傾向

4. 今後に向けて

(「図書館活用法」関連)

- 講師間の連携強化
- レポート、課題、成績評価 のあり方
- 学生の満足度と教育効果
- 学内における図書館リテラシー教育の展望
- プログラム評価の実施→2008年度4月～

(この取組全体)

- 図書館員の専門性を高める研修体制の確立→スタッフ・ディベロップメント(SD)研修の実施(2008年度)
- リテラシー教育施設の拡充
- デジタルコンテンツの充実
- アンケート調査を分析、公開し、パブリックコメントを得るシステムの確立

5. 2007年度末～2008年度の取組

■ 諸課題への取組

- (1) ワークショップ開催
- (2) 評価活動の開始
- (3) SD 研修会の実施

(1) ワークショップ

- 2008年3月 明治大学において特色GP ワークショップ「図書館の持つ教育力について考える」を開催
- 取組に関与する学生・教職員からの多角的な検討
- 図書館によるリテラシー教育活動を、大学全体の情報リテラシー教育の中でどう位置づけるか、という課題が明確化

(2) 評価活動

- 2008年4月～ 総合講座「図書館活用法」に関する「プログラム評価」
- ハワイ大学の、教育プログラム・アセスメントを専門とする研究チームの協力
- 従来の「授業評価アンケート」とは異なり、「図書館活用法」という教育プログラムを新しい目で捉えなおす
- 「図書館活用法」を学内全体の教育活動の中に位置づける試み

- 2008年4月「図書館活用法」関係者(タスクフォース、教職員講師)によるワークショップ
- 「プログラム評価」とは何か
- 「図書館活用法」の何を改善してゆくのか
- 「学習到達目標の設定(どのような知識・スキルをどの程度?)」を最優先課題とする

- 「図書館活用法」に関わる関係者(ステークホルダー)へのアンケート調査
- タスクフォース、教職員講師:何を教えたいのか(教育ニーズ)
- 履修学生:何を学びたいのか(学習ニーズ)
- 学部教員:リテラシー教育への期待
- リテラシー教育に関する決定権を持つ学内役職者:将来展望に関わる問題?
 - 本学におけるリテラシー教育:定義づけの試み
 - 図書館リテラシー:学生が本学図書館の役割・特色を十分理解した上で体系的な図書館利用をするためのノウハウ
 - 情報リテラシー:図書館所蔵資料はもとより、世界中に流通する膨大な図書、情報に自らアクセスして適切な資料を見つけ出し、批判的検証ができる能力や知識基盤社会を生き抜くための知力
 - 学術リテラシー:大学で学ぶための基本的技法や検索した資料を利用してレポートや論文に仕上げていく能力
 - 以上の3つのリテラシーを含んだ総合的な知力。

図書館の教育力のさらなる活用のために

- 図書館と学部教育との関係強化:住み分け⇔融合?
- 「平成19年度特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」ホームページにて資料公開
↓
- 「明治大学図書館HP」からご覧ください。 <http://www.lib.meiji.ac.jp/about/gp/index.html>
- ご意見、ご質問をお待ちしております。 ご清聴ありがとうございました。